

アポイ岳登山



室蘭市医師会
あだち内科クリニック

安達 健生

襟裳岬の宿を出発した時は、まだ濃い霧が立ち込めていたが、アポイ岳登山口に到着した頃には、徐々に霧も晴れてきた。登山日和となりそうだ。昨日は丸一日雨だったので、延期したのは正解だったようだ。連休最終日、駐車場はすでにかなり埋まっている。さすがは7月の花の名山である。年に数回の低山登山ではあるが、つきはありそうだ。

準備を済ませ、早速登山を開始した。橋を渡り、小川で登山靴を洗う。最初はゆるやかな坂道を、のんびりと花の写真を撮りながら進む。紫のアポイアザミや白いハクサンシャクナゲが目を楽しませてくれる。徐々に坂がきつくなり、足を踏ん張って登る。後ろから来た若い女性の二人連れが、颯爽と抜いて行った。カッコいい。ようやく5合目の休憩所小屋に到着した。展望が開けたが、頂上はまだ雲の中だ。小休止の後、登山再開。ここから胸を突くような急勾配が続き、歩みが遅くなる。暑い、汗が流れる。休憩しながら、イブキジャコウソウやサマニオトギリのきれいな花を眺め、元気を頂く。「こんにちは、お早いですね。」と、下山途中の人々と挨拶しながらすれ違う。

やがて7合目を過ぎ、馬の背に出た。霧は晴れ景色が広がり、足元はお花畑だ。大勢の登山客がにこやかに休憩している。青い空とアポイ岳頂上から続く吉田岳、さらに霞んではいるが日高山脈がきれいに見える。左手に様似の海岸線と街並みが遠く広がっている。白いアポイハハコが可憐だ。キンロバイの黄色の群生に写真撮影が忙しい。さあ、頂上を目指そう。ガレた道や、岩山の登山道を一步一步しっかりと登る。幌満お花畑への分岐を右に分け、頂上へ向かう。白い花のアポイツメクサが可愛い。

ようやく9合目だ、あと少し。すると、「ここがわしらの頂上だ」とくつろぎながら、風呂敷を広げる先輩の方々がおられた。「ここのほうが景色はいいぞ」とにこやかに笑いながら、おいしそうに握り飯を頬張っている。ちょっと意外な感じで拝聴したが、「そうか、こんな登山や人生もいいもんだ」と妙に感心してしまった。ここで足を止めてしまおうかという誘惑に駆られたが、連れに促され、後ろ髪を引かれながら頂上を目指した。うんうん唸りながら、さらに急登の岩山の道を頑張って登っていると、突然開けて頂上に到着した。あっけなくも充足した気持ちが胸に広がった。約3時間30分のアポイ岳(810.6m)登山であった。

アポイ岳頂上の展望は、たしかに9合目には負けるが、握り飯は美味であった。女性だけの登山者グループも多く、ソロの写真家も見かけた。追い抜かれた若い女性の2人組には、その後会わなかった。あの速さだから、隣の吉田岳へ向かったのだろう。荒々しくも広大な日高の山々の眺めと、様似の美しい海岸線を十二分に堪能した、初めてのアポイ岳登山であった。

さて、たくさんの花の写真をお土産に帰ろう。今回はぜひ、春に訪れたい。連泊と長時間の登りを、連れが了承してくれたら話ではあるが。下山時に、連れに遅れを取ったのはご愛嬌だ。全身の心地よい疲れは、帰路に寄った様似海岸の夕日に映える親子岩が、静かに癒してくれた。



馬の背からアポイ岳と吉田岳



アポイハハコ



様似海岸の親子岩